

令和4年度 第2回田原市総合計画審議会：議事録

日 時	令和5年3月24日（金）15時00分～17時00分
場 所	田原市役所 第1委員会室（北庁舎3階）
出席者	<p>委員（敬称略、順不同）</p> <p>藤井 正剛 田原市地域コミュニティ連合会 会長 高崎 佐智江 田原市教育委員会 委員 鈴木 照彦 愛知みなみ農業協同組合 代表理事組合長 河合 利則 田原市商工会 会長 森下 直樹 渥美商工会 会長 川口 正康 愛知県漁業協同組合連合会東三河支部 支部長 山田 俊郎 田原臨海企業懇話会 会長 小林 篤史 田原市消防団 団長 山田 貴三 田原市社会福祉協議会 会長 中川 鈴江 田原市更生保護女性会 会長 鈴木 嘉希津 一般社団法人田原青年会議所 理事長 吉田 昌弘 愛知厚生連渥美病院 病院長 石黒 功 渥美半島観光ビューロー 会長 渡会 美加子 NPO法人たはら国際交流協会 理事 稲垣 瑞恵 愛知県農村生活アドバイザー協会田原支部 会長 杉浦 操 田原市赤十字奉仕団 委員長 山本 充朗 田原金融協会 会長 鈴木 桃子 田原市小中学校PTA連絡協議会 女性部長 戸田 敏行 愛知大学地域政策学部 教授</p>
欠席者	<p>山本 貢司 田原市農業委員会 会長 小久保 武彦 田原市土地改良区 理事長 光部 泰弘 田原市老人クラブ連合会 会長 太田 文子 田原市民生児童委員協議会 副会長 浅野 純一郎 豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 教授</p>
傍聴者	なし
顧問	山本 浩史
事務局	<p>企画部 部長 企画部 次長 企画課 4名 策定支援委託業者 2名</p>

議 題	1 会長あいさつ 2 報告事項 (1) 令和4年度田原市市民意識調査の結果について (2) まちづくりに対する市民意見について 3 議題 (1) 会議録の公開について (2) 総合計画の骨子(案)について (3) 総合計画の基本構想(素案)について 4 その他
配布資料	会議次第 資料1 令和4年度田原市市民意識調査結果 資料2 まちづくりに対する市民意見について 資料3 会議録の公開について(案) 資料4 第2次田原市総合計画 骨子(案) 資料5 第2次田原市総合計画 基本構想(素案) 田原市の現況(令和4年度版)

1 会長あいさつ

戸田会長	委員並びに顧問の皆様には、年度末の大変お忙しい中ご参集いただき感謝申し上げます。 本日の出席委員は審議会条例第7条第2項に定める過半数を上回っているため、本会議は成立しています。 それでは、ただ今から第2回総合計画審議会を開会する。
------	--

2 報告事項

- (1) 令和4年度田原市市民意識調査の結果について
- (2) まちづくりに対する市民意見について

戸田会長	それでは、次第2の報告事項について、事務局の説明を求める。
事務局	(資料説明) 資料1
事務局 (委託業者)	(資料説明) 資料2
戸田会長	ただ今の報告について、ご質問・ご意見等あれば発言をお願いします。 市民意識調査について、幸福感の点数の変化を時系列で見ているが、他の地域との比較もできないか。 田原市の優れているところのような個別の項目と幸福感の関係がわかると理解しやすくなると思うが、そういった点はどうか。

事務局	<p>他地域における幸福感に関するデータが手元にないためすぐというわけにはいかないが、今後そういう事例が出てくれば比較してみたい。住みよさの指標についてはおおむねこの市町村も出しており、そちらに関しては近隣市町村と比較して田原市はやや高いレベルの傾向にある。</p> <p>幸福感と個別項目とのクロスについて、そこまで詳細なものは出していないが、今のご意見を参考に可能な範囲でデータ分析を行っていきたいと思う。</p>
戸田会長	<p>もう少し分析を進めていただくようお願いする。</p> <p>皆さんから何かあるか。</p>
山本顧問	<p>グラフの例示があまりにも小さく見づらいので、もう少しはっきりわかるようにしてほしい。</p>
戸田会長	<p>わかりやすいように修正をお願いする。</p> <p>幸福感についての全体の平均点は出ているが、性別や年齢別の平均点も出してみると比較要素が増えるので、それについてもお願いしたい。</p> <p>他にいかがか。</p>
藤井委員	<p>若年層に対しWEBアンケートを実施したことに意義があると思う。次回調査時に追跡調査を行えば回答者の気持ちの変化がわかり、面白い気もする。その当時は愛着があると思っていたが、数年後外に出て気持ちが変わることもある。</p>
事務局	<p>若者は社会経験が少ないため、その時々ライフステージでの判断となる。調査方法も含めご意見として受け止め、参考にする。</p>
戸田会長	<p>調査結果のまとめでは将来の居留意向が5割弱で割と楽観的な書き方になっているが、問5を見ると外へ出たいと回答している若者が多いので厳しめに捉えたほうが現実に近いのではないかと思った。</p>

3 議題

(1) 会議録の公開について

戸田会長	<p>それでは、議題に入る。まず、はじめに「(1) 会議録の公開について」、事務局の説明を求める。</p>
事務局	<p>(資料説明) 資料3</p>
戸田会長	<p>ただ今の説明について、何かご質問等あれば発言をお願いする。特にないので、会議録の公開について原案どおり実施するという事で異議ないか。</p>
委員一同	<p>(異議なし)</p>
戸田会長	<p>それでは、「会議録の公開について」原案どおり決定する。</p>

(2) 総合計画の骨子(案)について

戸田会長	<p>「(2) 総合計画の骨子(案)について」、説明をお願いする。</p>
事務局	<p>(資料説明) 資料4</p>
戸田会長	<p>ただ今の説明について、何かご質問等あれば発言をお願いする。</p>

河合委員	<p>全体的にはわかりやすくてよい。ただ、基本構想2-(3) 観測指標として幸福度の指標というのがあるが何が幸福かは人によって異なるため、もう少し普遍的で曖昧ではない指標にできないか。一般的に用いられる指標ではあるが、ピンとこない。今は幸せでも明日はそうでないかもしれないので、政策的にどの程度打てるのかと思う。もう少し比較できるような指標を設定できないか。</p>
事務局	<p>なかなか難しいご意見をいただいた。分野ごとの施策をどう考えるかというのは、先ほどの市民意識調査の満足度に大きく表れてくる。指標としては住みよさも感覚的なものなので何を根拠にということはあるが、一定の感覚に基づいても致し方ないと事務局としては考えている。確かに幸福度についてはコロナ禍での閉塞感や行動制限、経済的な負担があったということで少し落ち込んだのはトレンドとしてわかりやすいかと思う。そのときの気分や自分を取り巻く環境により充足感が日によって変化することはもちろんあるが、統計として多くのサンプルの中から傾向や経過を見る指標としてはおおむね妥当ではないかと思う。会長からアドバイスをいただければ有り難い。</p>
戸田会長	<p>幸福度についてはブータンが有名だが、まずは国単位で使い出した。基礎自治体でも使っている所は結構あり、そういった点に着眼していこうということで指標としている。委員がおっしゃるように客観的でないという要素もあるが、人間の生き方の総合指標として幸福度を用いている。だが、この幸福度というものがどういう意味を持っているかについて別途考えなければならない。幸福度を表すとき片方に経済、時間、交友関係等の客観的な指標を捉えておいて総合指標を出し、その間にどういう関係があるかという重回帰分析を行いながら構造を明らかにしていく。幸福度というのはエリアや人によって違うが、それでも指標を使うことはある。KPIとKGIという分け方にするのであればKGIのほうになってくるが、それと合わせてKPIのようなプロセスをチェックしていく指標も要るかもしれない。</p>
河合委員	<p>ある程度共通認識ができないと政策も絵に描いた餅になりかねないため、何か客観的な指標があればということで意見を述べた。</p>
戸田会長	<p>幸福度について考える場合、分析や議論が大事になる。幸福という概念については問われて初めて考えるもので、考えることがとても重要である。ちなみに、田原市では前の総合計画から幸福度を使いはじめ、私も地区別の分析を行った。それで幸福度が高いエリアがわかってきてなぜその幸福度が高いかを考えるわけであるが、そのときの私の印象としてはいわゆる経済指標とは随分違う感じがした。田原市における幸福とはどういう像であるかということを追っていくようなデータになるのではないかと思う。その追い方は事務局で考えていただき、我々としてもプロセス等について議論していくことが重要になる。幸福度というのは非常に主観的であるが、特にそれをエリア的に見出していくことがとても重要。ブータンのように物質では測れないという感覚を持つことも必要だと思う。</p>
事務局	<p>会長からお話しいただいたように、幸福度について設定したのは現在の改定版</p>

	<p>第1次総合計画で10年前からになる。幸福度について、会長からブータンのお話も出たが、国はクオリティオブライフやワークライフバランス、最近ではウェルビーイングを重要視するようになってきた。自分がよいと思う生き方をしていくことを言葉として出しているし、また、今後働き方改革も進んでいくところで心の部分を非常に重要視していく流れになっている。田原市では先取りで10年前に幸福度の指標を設定したと考えており、今後も引き続き設定してまいりたい。ただ、調査をする際に客観的なデータの取り方ができるよう工夫していきたいと考えている。</p>
鈴木(照)委員	<p>幸福度を1~10の指数で表すことに無理があると思う。どうしても点数化しなければならなのであれば、例えば住環境や仕事において幸福を感じているかなどの入口を設けたうえでのことだ。同じ家で暮らしている夫婦や親子であっても各自で幸福度は違うため、角度を変えながら見ていく必要があるのではないかと。</p>
稲垣委員	<p>心の豊かさ、物質的な豊かさのどちらを優先して考えるのか。</p>
鈴木(照)委員	<p>当然心の豊かさである。お金がなくても豊かだと感じる人も大勢いるわけで、心の豊かさを問うようなアンケートになるかと思う。</p>
戸田会長	<p>ここは議論が分かれるところなので、事務局にはよく勉強してもらいたい。一人当たりのGDPを調べればすぐに出るが、主観的な要素をどう構築していくかということである。それをどう表すかであるが、表し方や情報の出し方を考えること自体に大変意味があるので、それを念頭に置きながらいろいろな意見を出していただいて、その中から皆さんがこれだろうというようなところに収斂されていけばよいのではないかと。</p>
山本顧問	<p>グラフの話に戻るが、18・19歳の回答が5件しかないことを無視したままデータが一人歩きしてしまう危険性を心配している。18・19歳と20歳代を分ける理由や意義もあると思うが、5件しかないため取扱いには気を付けたほうがよい。</p>
事務局	<p>今回の調査結果として、18・19歳は20歳代に含めることなども検討したい。</p>
戸田会長	<p>サンプルがあまりにも少ないと誤解を招く。10歳ごとに区切る必要はなく、統計的に見て有意であるような区切り方にすればよい。</p>
山本(充)委員	<p>先ほどの幸福度の観測指標であるが、時系列で追うことが必要だと思う。定期的に取りするのは難しいかもしれないが、例えばホームページにアクセスしたときにポップアップで幸福度を5段階ぐらいで問うような仕組みを作れば足元の経済環境を含めいろいろな分析ができるので、ある程度時系列で追っていく必要があるかと感じた。</p>
事務局	<p>アンケート自体は3年ごとに取り替えている。</p>
山本委員	<p>3年では期間が空きすぎると思う。</p>
事務局	<p>全ての項目ではなく幸福度のような指標、あるいは他に参考になるような指標を取っていてもよいかと思う。ただ、母体となる調査手法が同一でないと比較のデータとしては難しいためそれはそれで残しつつ、それ以外の調査手法についてまた研究する。</p>

戸田会長	幸福度のような主観指標を中心にしている自治体もある。そういう取組をまた調べてもらって対応の仕方等考えてもらえればと思う。
鈴木(照)委員	先ほどの意見の補足であるが、幸せは人によって違うと思うので“あなたは何に幸せを感じますか”というような設問をどこかに入れれば分析も深まるのではないか。健康であること、希望する学校に進学できた、農家であれば豊作だったなど何に幸せを感じるかというところも大事だと思う。
事務局	参考にさせていただく。
戸田会長	<p>いろいろな調査手法がある。出来事を書いてもらうことで共感や気付きも出てくるし、その切り口から人の想いをどう汲み上げていくかというプロセスを研究して行って田原市らしいものを作ってもらえればと思う。</p> <p>他にご意見等ないか。</p> <p>人口指標、目標人口の考え方であるが、あまりにも楽観的なものは数値を定めることの意味を失いがちだという感じがする。むしろ減少を受け止め、その中でどうできるかというようにリアリティを持っておかねばならない。そういう意味で目標をどのように考えておられるか。事務局としての見解がもしあればお聞きしたい。</p>
事務局	人口減少を田原市だけが避けて通れるかというのは、日本全体のことを考えても非常に厳しいと考えている。おっしゃるとおり人口減少を受け止めつつ、ただし人口の維持については精一杯の努力をしまいたい。また、人口が減った中でいかにまちを維持し持続性を高めていくかという観点で今回の総合計画のとりまとめを進めていきたいと考えている。
戸田会長	社人研の予測よりも現実として人口の割込みがかなり激しいというのは昨今取り上げられているとおりなので、リアルに見ていくことが必要だと思う。

(3) 総合計画の基本構想（素案）について

戸田会長	「(3) 総合計画の基本構想（素案）について」、説明をお願いします。
事務局	(資料説明) 資料5
戸田会長	ただ今の説明について、ご質問・ご意見等あれば発言をお願いします。
藤井委員	<p>2ページの①、人口関係についてだが、後段に「交流人口の拡大に向けた取組」とある。定住人口の拡大も当然前提になっているとは思いますが、実際に地域に住む人が増えてほしいというのがあるので、定住人口も入れたほうがよい。</p> <p>同じく2ページの③、コロナについて「終息が見通せない状況」という書き方になっているが、この状況は変わってくるのではないかと思う。</p> <p>3ページの(2)まちづくりのあゆみの3段落目に「『田原市地域コミュニティ協議会連合会』が設置されました」とあるが、主語がないので入れてほしい。</p> <p>4ページの都市整備のところ「渥美半島道路の早期整備促進」とある。これはこれでよいが、10年のスパンということ考えるとまずは幹線道路だと思うので、その辺り入れたほうがよいと感じた。</p>

事務局	<p>人口のところについてはおっしゃるとおりなので、定住・移住人口の増加に向けてまずは交流・関係人口を増やしていくというような書きぶりにする。</p> <p>新型コロナウイルス感染症のところは今後どんな感染症が出てくるかも含めてどのような世の中になるかというところで、普遍的な表現に変える。</p> <p>まちづくりの経過については主語も含めてもう少しこなれた文章にし、わかりやすく記載していく。</p> <p>幹線道路についてはおっしゃるとおり国道 42 号・259 号が今よりも速達性が上がるような形が求められているので、そういった部分も記載する。</p>
中川委員	<p>先日保護司会として名古屋保護観察所に行き、再犯防止等の施策についての講習を受けてきた。なぜその講習を受けたかというところ、田原市が再犯防止等の計画策定を行うとアンケートで答えているから呼ばれた。市役所だけで賄うのは大変なのでボランティアの団体と協力して受け皿をつくるようにと言われた。国が地方公共団体に再犯防止推進計画の策定を進めるようにと命じており県から田原市にも下りているということなので、是非とも再犯防止についての文言を入れていただきたい。そうでないと施策にも反映されにくいと思う。刑期満了の 2 人に 1 人が 5 年以内に再犯者となっており、その大きな理由としては学力不足が考えられる。高校中退者が多く中卒の学歴しかないので企業が採用せず、また、不登校児童も随分多いため中卒の学歴しかない子どもたちがある程度増えていくという状況になっている。一度頑張ろうと思って高校に行ったが諦めてしまった子たちを家庭だけでなく社会全体で支える必要があると思う。</p>
事務局	<p>いただいた内容については担当部署に確認し、どういった文言を記載すべきかなどについて調整させていただく。</p>
戸田会長	<p>1 ページの (1) 総合計画策定の目的は最も重要な視点である。今の再犯防止や先ほどの幸福度のような人々の生き方や心の問題を扱おうという話だと思う。それをどう表現するのかという問題はあるが、この中に表現されること自体が必要だと考える。経済、デジタル、気候と書かれており、それはマクロ的なことであるのは事実だが、ミクロ的なものをどのように結び付けていくかが大事だと思う。物理的な条件のみ増やし続けても飽和するだけで、だから人口が減っている。そういう状況の中、何を見ていくかということをも目的のところにもう少し書けばよいと思う。今の書き方ではやや型通りな感じがする。ここを型通りにすると、名称は総合計画なのに実態としては分野別計画になってしまう。何をもちいてこれを組み付けていくかという考え方をここにもう少し書けば、それが将来都市像の「うるおいと活力のあるガーデンシティ～みんなが幸せを実現できるまち～」につながると思う。表題が枕詞で終わる場合と最後まで幹にしていくものに分かれてくる。やはり全体的な認識を比較しておくことが必要だと思う。</p> <p>基本構想、基本計画、実施計画ということで時間的に基本構想は長く押さえて基本計画は 10 年、実施計画はローリング方式で 3 年であるが、全部が一つの色で染まるような立て方になっている。確かに今まではそれでよかったが、変化が非</p>

	<p>常に激しくなってきたので実施のところが変わってくることもありうる気がする。行政が立てているものというのは理にかなっており法的、制度的背景を持っているので、そういう意味で少し知恵が要る感じがする。総合計画というのは難しい時期に入っている。総合計画は元々議会議決事項であったが、今は必ずしもそうでなくプロジェクトだけ決めればよいという自治体もある。だが、田原では議会議決事項としているので、どのように決めるかが大事で深化させていく必要があると思う。これについては立て方の中で考えていただきたい。</p> <p>他にご意見等いかがか。</p>
川口委員	<p>4ページの(2)田原市の課題、健康福祉のところ「医師確保など地域医療体制の維持」と書かれているが、田原市には潜水土が多いので潜水病になったときの搬送の問題がある。岡崎や名古屋まで運ばれるような体制では時間がかかりすぎて命に関わる。タンクがあるならそれを活用できるように是非ともお願いしたい。</p>
吉田委員	<p>現状マンパワー不足は免れないところである。潜水病に限って言うと、タンクはあるが夜間は当直医が1人しかいない。潜水病の場合チュービングが必要だが耳鼻科医でないとできない。常勤の耳鼻科医は1名いるが、高齢のため夜間対応ができないという事情がある。</p>
川口委員	<p>医師の確保は無理なのか。</p>
吉田委員	<p>非常に難しい。渥美半島というと地理的な問題があり医師がなかなか来てくれない。私たちの頃は医局の人事は絶対であったが、今は医師に選択権がある。</p>
川口委員	<p>東京女子医大の先生がヘリコプターで渥美半島から搬送するという構想を立ててくれたが、着陸できる場所がなく頓挫した。昔の渥美病院のときにはドラム缶のような小部屋があり、そこに入ればガスが抜けた。そういうものを復活させてほしい。</p>
吉田委員	<p>平日の昼間であれば対応できる。ただ、夜間や土曜、日祝日は難しい。</p>
戸田会長	<p>それでは、基本構想についてのご意見はここまでとする。ここから先はご発言がなかった方にお話を伺いたい。</p>
高崎委員	<p>私には子どもがいて経済誌の新聞記者をしていたが、地域創生に興味を持って大学院に戻りデータ分析等の勉強をしている。恐らく自分が育った田原市に魅力があったためそうしたのだろうと思っており、そのように育ててくださった先生方や地域の方に大変感謝している。</p> <p>もうすぐ豊川市に大型施設がオープンする。私は市外に出たときに若い方に声をかけてお話しさせていただくのだが、皆さんショッピングモールにとっても興味を持っている。まだ結果が出ていないのでわからないが、魅力的なまちづくりのためには若い方と明るい未来が大変重要になってくるのではないかとつくづく感じている。</p>
森下委員	<p>渥美地区といえば伊良湖地区の観光と福江市街地の再開発が大きいと思う。伊良湖地区の観光というと伊良湖温泉であるが、宿泊施設がまだまだ少ないと感じ</p>

	<p>ている。我々商工会も積極的に行動しているが、風呂の改装の補助金も多くは出ないということで、その辺りなんとかしていただきたい。福江市街地についてはショッピングセンターレイの跡地の問題があり、また、農協の跡地にはプールが出来ると聞いている。このような福江市街地の再開発についてもプランの中に入れていただければ有り難い。</p>
戸田会長	<p>地区の計画も入るのか。</p>
事務局	<p>地区の方向性のようなもの、例えば福江市街地の強化については基本構想及び基本計画に文言として載せる。なお、基本計画に載せる際に方向性にとどめるか、もう少し突っ込んだ書き方にするかについては、また考える。そして、実施計画には当然事業の名前が載ってくるので、だんだん細かくなっていくという使い分けになる。総合計画にどこまで載せるかは今後調整させていただきたいと思う。</p>
戸田会長	<p>なるべく載せて、皆さんが見て希望が湧くようなものにしてほしい。あまりにも抽象的では困る。</p>
事務局	<p>少なくともそうしたものが読み取れるような表現にする。</p>
山田(俊)委員	<p>田原臨海企業懇話会の山田である。先ほどから人口減少の話が出ているが、田原臨海企業としては78社ぐらい、1万5千人ほどの方が働いておられる。トヨタには8千人の従業員がいるが、その居住地域は田原と豊橋が3千人ずつ、あと2千人は豊川その他という構成で、田原に住む人がかなり減少している。田原市には本当によい会社があるのでここで頑張って定着していただきたい。地元企業を活性化させることが人口増加につながると思っている。</p>
小林委員	<p>田原市消防団の小林である。人口減少に関しては歯止めがかからない状況だと思うので、それに見合った構想を立てていかなければならないと考える。</p> <p>私には高校生と中学1年生の子どもがいるのだが、小学生の頃はスマホのゲームに夢中であった。スポーツテストの結果等で子どもの体力の低下が懸念されており、子どもたちが外で体を動かせる場所が必要ではないかと思う。今の若い子は屋外での労働を嫌がるが、子どもの頃から体を動かす習慣があればそういうことの改善にもつながり将来的には消防団に入ってくれる人も増えるのではないかと期待もしている。</p>
山田(貴)委員	<p>社会福祉協議会の山田である。前回の会議で改定版第1次総合計画をいただき読んだのだが、分野別計画のところに当時の中学生のメッセージが載っていた。11年ぐらい前の中学生からのメッセージが今の田原市に活かされてきているか、そのことを私自身の心に留めてこの会に臨みたいと思う。</p>
鈴木(桃)委員	<p>PTAの女性部長をしている。田原市の人口が年々減少しているということであるが、具体的な理由は何か。出生率以外で考えられることがあれば教えてほしい。</p>
事務局	<p>やはり最大の要因としては子どもの数が減っていることだ。今の田原市における1年間の出生数は400人を切って300人台である。数年前までは500~600人であったが、子どもを産める世代の女性の数が少なくなっておりかつ未婚率も高い</p>

	<p>ため、自然増減に関してはそこが一番大きな人口減少の原因となっていると思う。一方、社会増減は企業の状況によっても変わる。先ほどトヨタの従業員が8千人という話があったが、製造業の調子がよいときは1万人ほどいた。ただ、それはあくまで景気で変わるものなので、子どもの数をいかに増やしていくかが重要だと考える。</p>
鈴木(桃)委員	<p>色々な政策があると思うが、減少している理由を明確にもっと具体的に出したうえでそこに向けての対応をしていくほうが現実に寄り添った政策になるのではないか。</p> <p>田原市の子育てについて、中学生までは育てやすいまちだと私の周囲も言っている。ただ、高校生になってバスや電車を利用するようになると通学しにくいということで高校進学を機に豊橋に引っ越した人がある。また、田原市には障害者用のリハビリ施設がないためこれまで豊橋に通っていたが限界が来て豊橋に移り住むというケースもある。せつかく田原で移住、出産・子育て等で手厚い補助を受けてここで育ててきたのに子どもがある程度大きくなれば外に出てしまう現象が目立つと思う。中学校卒業後の若い世代に向けての対応が十分でないと感じている。</p> <p>先ほどの市民意見の中でたくさん要望が出ているが、ただの要望で終わらせず自分から働きかけるという考えを持つ若い世代が増えればよいと思った。</p>
戸田会長	<p>子どもの育成についていろいろな観点からお話しいただいたと思う。</p>
杉浦委員	<p>田原市赤十字奉仕団の杉浦である。田原市に嫁いできて数十年たつが、非常に住みよい地域だと思っている。風光明媚で食べ物もおいしいという素晴らしい環境に恵まれた地元のよさをつくづく感じている。私は赤十字奉仕団なので防災について学ぶことがたくさんある。30年以内に非常に大きな地震が発生すると危惧されており、常に危機感を募らせながらいろいろな活動を行っている。こうして私も素晴らしい第二の故郷をいただいているわけなので、災害で一瞬にして故郷が姿を変えてしまわないよう災害に強いまちづくりを心がけていただきたいと思います。</p>
稲垣委員	<p>農村生活アドバイザーの稲垣である。事前に資料を読んだあとでここに来る道すがら考えていたのだが、伊良湖クリスタルポルトに入浴施設のようなものを造ってもよいのではないか。なぜなら近くに海があって夏は観光客でにぎわうし、秋に野山を利用した自転車競技があれば帰りにお風呂で疲れを癒せるからだ。既存のものを使って観光を誘致するときにそういったことも考えていただければよいかと思った。</p>
渡会委員	<p>国際交流協会の渡会である。課題としては多文化共生のハードルを下げることをお願いしたいと思う。技能実習生は3～5年で帰ってしまうが20～30代が多いので、非常時や災害時における強力なマンパワーになる。そのため、私どもでは防災訓練や多言語による防災講座に彼らを積極的に送り出している。彼らと一緒に災害時や非常時を切り抜けていこうというように考えていただければと思って</p>

	<p>いる。彼らはスマホも使いこなしており言語の問題もクリアできるので、私どもの意識を変え多様な人々との共生ということを課題として考えていただきたい。</p>
石黒委員	<p>4ページに将来都市像として「うるおいと活力のあるガーデンシティ」とある。耳ざわりはよいがどこにでもあるような文言だ。「ガーデンシティ」をネットで検索するとどの市も使っているし「うるおいと活力のある」もどこの自治体の将来都市像にも当てはまる。田原らしさを出すのは難しいと思いつつも、何かよい言葉があればという感想である。</p> <p>人口減少についてだが、外国籍の人材を田原市として積極的に活用するのか、ここをどう考えるかによって人口の構造も大きく変わってくるような気がする。国が二の足を踏んでいる部分もあるが、日本の中でも渥美半島を外国人に選んでもらうというぐらいの構想を考えていただくとよいと思った。</p> <p>構想の中にインバウンドという言葉が見当たらなかったのも、その方向性も入れていただければうれしい。</p>
戸田会長	<p>人口と外国人のことはフレームに関わるので、事務局からのコメントが欲しい。</p>
事務局	<p>色々な田原の資源を活かす中どう外国人に係るか、また、外国人に選んでいただくためにどうすればよいかについて明確な答えは出ないが、例えば田原福祉グローバル専門学校という介護の学校では多くの外国人が学んでいる。その方々がこの地域の福祉施設に就職し定住している現状もあるので、それが人口減少にどう処方せんとしてつながっていくかということも視点に入れながら今後整理していきたいと考えている。</p> <p>インバウンドの件は今後基本計画の詳細な部分をつくっていく段階で当然課題と紐づく形で載せる。</p>
戸田会長	<p>シャープにしなければならないところはそうする必要はある。都市像の辺りももう少し田原の特徴を盛り込んでいってはどうかと思う。</p>
吉田委員	<p>医療面では当院で渥美半島の地域医療を絶対的に守っていかなければならないので、最低限今の診療機能を落とさないよう努力する。人手不足のため、お医者さん、看護師さん、薬剤師さんのお知り合いがいれば声をかけていただくと有り難い。</p>
鈴木(嘉)委員	<p>田原青年会議所の鈴木である。まちづくりに対する市民意見の中で子どもの遊ぶ場所が少ないというものがあったが、私自身も中学や高校の頃は市外に出て遊んでいた。自分には5歳の子どもがいてスケートボードを習っている。スケートボードについてはオリンピック等で日本人選手が優勝したこともあり、注目度が上がっている。田原にスケートボードができるパーク等の新しい施設が出来れば全国から人が集まり、大会等も行えばお金を落とすとしてくれ、さらには人が住むという好循環になるかもしれない。</p> <p>今の若者の情報収集はSNSが主なので、若い女性が遊びに行きたくなるようなまちづくりや環境整備等を行ってその情報をSNSで発信すればどんどん拡散されて人が集まるまちになるのではないかと思った。</p>

山田(貴)委員	石黒委員から「うるおいと活力のあるガーデンシティ」についてご指摘があったが、その下に「みんなが幸せを実現できるまち」と書かれており、将来都市像に込めた想いとして「誰もが幸せを実現することができる環境をつくるため、市民や事業者、団体、行政などが連携し、まちづくりに取り組んでいきます」と説明されている。これは実現することができるように連携して取り組んでいくのではなく、環境を整えるためにいろいろな人たちが連携して取り組んでいくという捉え方でよろしいか。
河合委員	実は10年前にこの審議会で意見を言わせていただいた。はじめは「みんなが幸せを感じるまち」という案だったがあまりにも主体性がない、幸せは自分でつかむものという意味で「みんなが幸福を実現できるまち」に決まった経緯がある。でも、幸福を実現するのに邪魔があってはならないから、環境という言葉を用いて説明を入れてもらった。
事務局	「みんなが幸福を実現できるまち」というのは、今の総合計画22ページにまちづくりの理念として位置付けている。その下で理念に込めた思いを整理しているわけだが、今回も基本的にはこの考え方を引き継いでいる。
戸田会長	そういうベースがあるということでご理解いただきたい。
高崎委員	チャットGPTというものをご存じか。皆さんがこれまでおっしゃった質問を入力すれば、多くのよい答えが出てくるだろうと思った。
戸田会長	それを超えることがポイントである。
中川委員	私は岡山県出身で、岡山市内の病院で母が臨終を迎えた。岡山市には看取りの病院がたくさんあり対応も丁寧で、福祉面が充実していると聞いた県外の方も入院されている。今日の会議では若い人たちが流出しないような方向の話が多かったが、逆転の発想で田原市ならではの田舎のよさ、風光明媚、温かさを強調してお年寄りと呼び込むのもよいかと思った。イベントで人を呼び込むのもよいが、スポーツ関係のことが多い。もちろんそれも大事だが、音楽、絵画等の文化芸術的なイベントもどこかに入ってくるとよいと思う。
戸田会長	時間をかけて皆さんと話をしていくことが重要なので、またこういう機会を設けていただくよう事務局にお願いします。

4 その他

戸田会長	「その他」について、事務局から何かあるか。
事務局 (部長)	次回の審議会は令和5年5月24日(水)午前10時から、本日と同じ場所で開催予定。資料等については事前にお送りする。
戸田会長	本日は長時間にわたってご審議いただき感謝申し上げます。 以上をもって第2回田原市総合計画審議会を閉会する。

以上